巻頭言

千葉市立加曽利貝塚博物館は、特別史跡加曽利貝塚を中心に縄文文化を究明し、その調査研究の成果を発信する拠点となることを目ざして設置されました。令和５年度は企画展３回、特別研究講座・縄文時代研究講座等８回のほか、史跡を活用したワークショップやイベントを開催しております。

今年度は、2023年２月に縄文時代貝塚遺跡の調査研究・保存活用を核とした連携協定を市原歴史博物館と締結したことを受け、博物館間連携を試行する年となりました。その取組みとして市原歴史博物館の企画展に共鳴する企画展「縄文人のお祈り」、講演会「お祈りの系譜」を開催したほか、イベント等を介した相互の広報を行いました。本連携によって自館だけでは思いもつかないテーマの事業ができるなど、連携のひとつの形が見えたものと考えます。今年度、本市で開催された第71回全国博物館大会「博物館法改正元年－つながり、交差する－」における総括報告にもあったように、お互いに「できること」からやっていく連携関係を通して今後とも博物館活動の充実に努めてまいります。

また、2018年以降開催している企画展「あれもＥこれもＥ－加曽利Ｅ式土器」では、「外房地域編」を開催しました。今回は企画展スペースを拡大し、会期中113点の資料を展示しました。外房地域は房総半島の中でも東北地方の大木式土器の影響が際立っており、本展では加曽利Ｅ式土器成立過程を視野に入れた展示となりました。

なお、2024年は加曽利貝塚Ｅ・Ｂ地点の発掘調査から100年をむかえます。これらの発掘調査の成果は日本考古学研究史上特筆され、加曽利貝塚の特別史跡指定の要件のひとつとなりました。そのため、令和６年度には、それを再評価する企画展「あれもＥこれもＥ－加曽利Ｅ式土器－総括編」(仮題)のほか、関連シンポジウムなどの開催を予定しています。

これらの博物館間事業を支えるのは、当館における日ごろの調査・研究活動です。その調査・研究の成果の公開・周知をはかる「貝塚博物館紀要」は、ここに第50号を刊行することができました。本号では調査報告２本、論文４本、本館企画展「あれもＥこれもＥ－内房地域編－」に伴う資料集成調査の成果報告を掲載しています。本紀要が今後の縄文時代研究の深化の一助となるものと期待します。

最後になりましたが、本紀要刊行をはじめ日頃より当館の活動にご理解を賜り、事業の推進、調査・研究に対してご指導、ご協力いただいた関係者の皆さまに対し厚く御礼を申し上げます。

令和６年３月２２日

千葉市立加曽利貝塚博物館
館長　神野　信